

2024年1月1日

能登半島地震 最大震度7

輪島教会の会堂と牧師館の状況





教会看板は、発災前日の
説教題のまま





1月18日、中部教区議長と現地委員が輪島教会を問安し、避難所にいる新藤牧師と信徒たちに支援物資を届けた。途中の道路は地割れしたり崩落したりしていたため、一方通行や時間通行止めもあり、通常の倍の片道4時間程度かかった。

1～3月まで礼拝は避難所の片隅で2～3名で行い、4～5月は比較的被害が軽度な教会員のお宅を借りて毎週行った。写真は4月7日の礼拝後。



5月10日
会堂横のスペースに、仮礼拝堂としてプレハブの設置作業が行われた。

輪島教会の仮設礼拝所

5月13日(月)、全壊した輪島教会堂の隣に仮設礼拝所が設置され、引き渡しが行われた。



長年使用してきたリードオルガンは礼拝堂から運び出され、工房和久井にて修繕される。

仮設礼拝所に、輪島教会の礼拝堂の十字架、講壇、長椅子3脚が運び込まれた。



仮設礼拝所の引き渡し式には、輪島教会から新藤牧師や信徒、教区現地委員、教団救援対策委員の他に、NCC、カトリック、近隣教会の方々など計31名が集い、共に祈り、喜びを分かち合った。

仮設礼拝所内

5月19日（日）ペンテコステ礼拝から仮設礼拝所の使用を開始した。その際、震災後初めて聖餐が執行された。広さは10畳程度で10名入ればいっぱいになる。



ペンテコステ礼拝のようす



輪島市内の被害（1月2日の教会周辺）



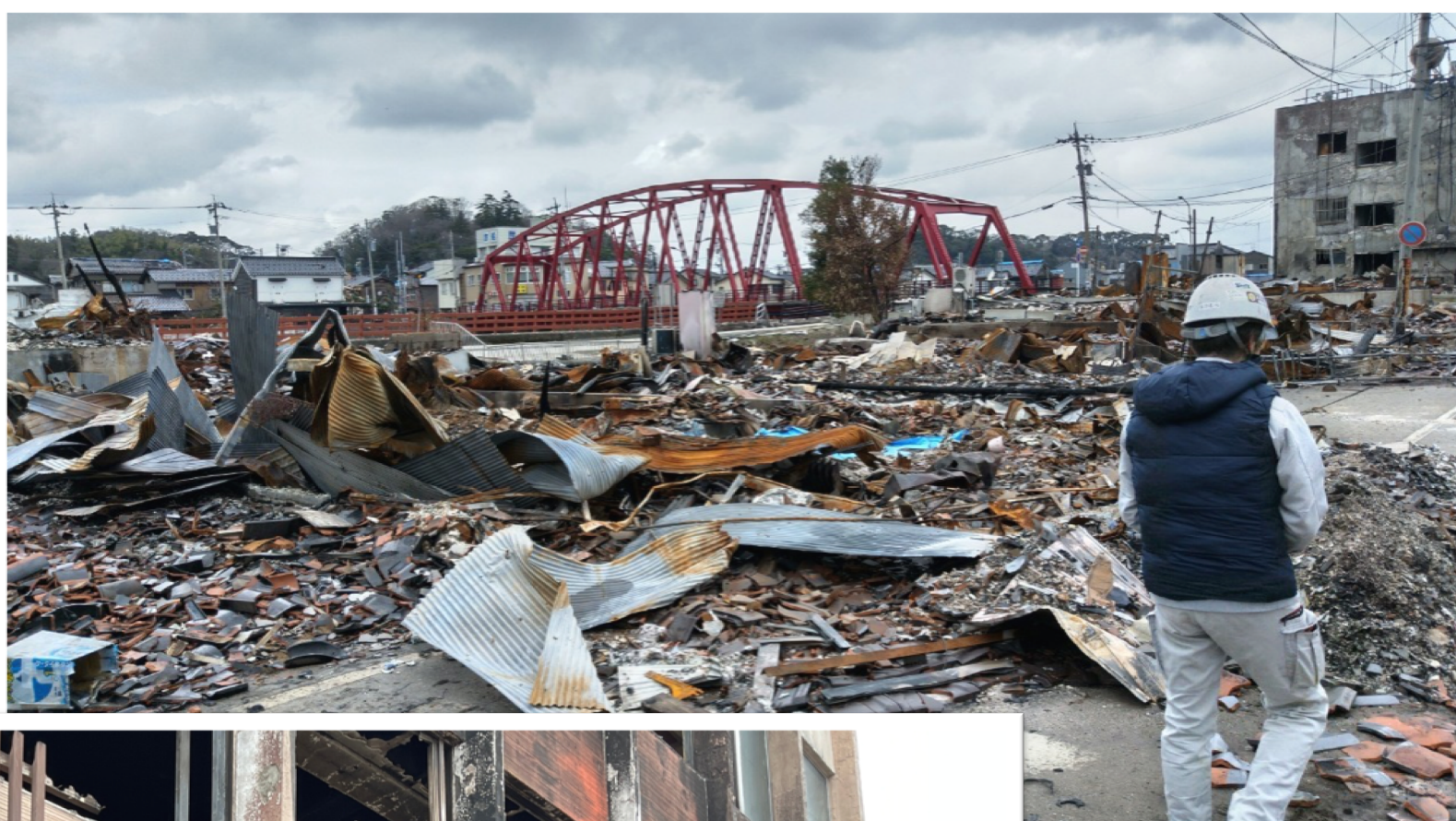
教会から歩いて5分に場所にある倒壊したビル。
10月より公費解体が始まった。



朝市通り周辺の大規模火災跡



1月4日



2月23日







海岸は最大4m隆起した。テトラポットの先がかつて海岸だった。

9月21日（土）能登半島豪雨発生(教会周辺)



構成：中部教区現地委員会

輪島教会は、1913年に創立しました、ですから2023年はちょうど創立110年目となりましたが、2024年の1月1日の能登半島地震によって礼拝堂は全壊となりました。そのため教会員の多くが二次避難のため輪島をはなれました、まだ住居関係のことで輪島に戻ってこられない方もいます。1月から3月までは避難所で輪島聖書教会の方と一緒に4名ほどで讃美歌をヒムプレーヤーと一緒に歌い礼拝し、4月からは、戻って来た教会員の自宅をお借りし礼拝しました。5月13日にはユニットハウスの仮礼拝堂が設置されました。元の会堂から長椅子と講壇運び入れ、5月19日のペンテコステからこの仮礼拝堂で礼拝をささげています。またこの日に輪島では地震後初めての聖餐も行いました。礼拝の平均出席数、前年度12名、今は7～8名です。

近所の方がこのユニットハウスの設置の様子を見て、自分の敷地内にも設置したいと言って、この業者に注文した方がおられます、またこの仮礼拝堂を見て復興のしるしのようで嬉しいと言ってくださった方もいます。7月と8月には日本基督教団を通してボランティア方たちが来て下さり牧師館の清掃や教会倉庫や書類の整理をしてくださいました。

4月以降徐々にスーパー、飲食店等が再開し始めていましたが、9月21日の豪雨の浸水によりコンビニエンスストア2店、飲食店5店ほどが閉店となりました。教会、牧師館、教会員宅は浸水しませんでした、家が壊れた教会員が、実家の倉庫に置いたその荷物が浸水被害のためだめになりました。また土曜～日曜は停電になり週報印刷もできませんでした。震災後、町の人たちが希望をもってがんばろうと言っていた矢先に水を差す、そんな結果の大雨でした。

礼拝堂は公費解体の予定ですが日程はまだ決まっていません、牧師館の風呂もまだ使えません。しかしながら多くの方々のお祈り、お支えに包まれていますことをあらためて思い感謝です。まことにありがとうございます。「輪島のために祈らずにはいけない」その言葉を聞くたびに祈って下さるお姿と主のみ姿を思いつつ、励まされています。